

手話通訳つき

ろう表現者のための

「乙女文楽」ワークショップ

テーマ：「二人三番叟」

…乙女文楽で初めに修得する演目です。

・「二人三番叟」の実演を観る
・「二人三番叟」(ショートバージョン)
を習得

- ① 人形を付けずに素で所作の稽古
- ② 人形を遣う
- ③ ペアを組んで発表

※以上を3日間で行います

対 象：ろう者、難聴者の舞台表現経験者
(性別を問いません)

講 師：ひとみ座乙女文楽
デフ・パペットシアター・ひとみ
(手話通訳やサポートを行います)

日程：7月20日(土)・8月17日(土)18日(日)
(13時～15時) (15時～17時)

参加費： 無料

会場： ひとみ座スタジオ

(東急東横線「元住吉駅」、「日吉駅」)

申込み：FAX 044-777-3570 MAIL dpticket@puppet.or.jp

(お申込時はお名前、ご連絡先をご記入ください)

主 催： (公財)現代人形劇センター

助 成： NHK 歳末たすけあい配分金事業

「乙女文楽」とは

人形浄瑠璃・文楽の流れを汲み、大正末から昭和の初めに、大阪で誕生しました。

文楽が三人遣い(一体の人形を三人で遣う)形式であるのに対し、乙女文楽は一人遣いです。

文楽は三人遣いならではの、繊細で写実的な表現を特色としますが、乙女文楽では一人でそれを可能にしようと、人形の仕組みに工夫が加えられています。考案者は文楽の人形遣い五世桐竹門造たちです。

人形と人形遣いの体が一体となった操法のために、繊細で写実的な表現が可能であると同時に、スピード感のあるダイナミックな動きも得意としています。

その名の通り、女性ばかりで演じられてきました。特に誕生当時は、少女たちによって演じられ、評判をとりました。

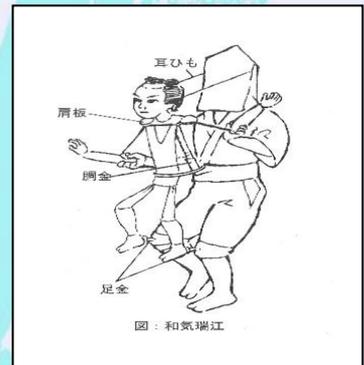
〈ひとみ座乙女文楽〉

講師の「ひとみ座乙女文楽」は、初期からの演者である桐竹恵子師に教えを受け、50年に渡り乙女文楽を継承し、国内外で公演してきました。現在は文楽の桐竹勘十郎師に指導を仰いでいます。演者は、現代人形劇団である「ひとみ座」の女性座員です。

2018年川崎市地域文化財として顕彰され、2019年松尾芸能賞特別賞を受賞しています。



「本朝廿四孝」
奥庭狐火の段より



図：和氣瑞江

前年度 乙女文楽 ろうの表現者向ワークショップの様子



練習しやすいように工夫した人形で練習します



素の稽古